

2025年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

授業科目名： データ処理特論Ⅱ	
担当教員名： 大矢 奈美	
授業科目概要： この授業は、社会調査のうち主に「量的調査」を扱う。アンケート調査を中心とした量的調査は、政策の立案やマーケティングに有益なデータを得るための手段だが、企画・設計が正しく行われていなければ、偏った情報になってしまう。また、偏りのない情報が得られたとしても、それを分析する知識が無ければ誤った結論を導いてしまうことにもなりかねない。 本授業では調査手法について概説した後、社会調査に必要とされる手続きについても取り上げる。データの集計および分析については、パソコンを用いた実習を交えて学ぶこととする。	
履修上の留意事項： <u>受講希望者は必ず事前にメールで問い合わせること。前提科目として、統計学特論（最低でも学部で統計学）を履修していること。</u> <u>履修証明プログラム受講生は、データ処理特論Ⅰを除く春学期必修科目を履修済みの上で受講すること。</u> テキストの正式な指定は、受講生の研究計画を確認してからおこなう。	
教科書・参考書（参考文献）	
教科書 書名：社会調査法入門（第2版） 著者／編者：盛山和夫 出版社：有斐閣 出版年：2005年	書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：
参考書 1 書名：入門・社会調査法（第3版） 著者／編者：轟・杉野 出版社：法律文化社 出版年：2017年	書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：
書名 書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：	書名： 著者／編者： 出版社： 出版年：
評価方法及び評価基準： 講義内で出される毎回の練習問題の取り組み状況（5割程度）、最終レポートの完成度によって、研究科の成績評価基準に照らして評価を行う。 最終レポートは、質問票の作成を含む調査の設計、仮データによる集計と分析について、授業で取り扱った内容が適切に使われているかが基本的な評価ポイントであり、更に調査設計の課題の指摘、発展的な分析がなされているような場合に加点される。	
問題意識を明確にし、それを検証するためのデータをどのように入手すれば良いのか判断して調査の設計ができること。また統計学の知識を使いながら得られたデータの分析をおこない、問題意識への回答を得ることができるようになることが目標である。このため、適宜、実習を交えながら進める。以下の計画は、受講生の理解度によって変更することがある。	

第 1 回	テーマ：調査の方法について考える 内 容：社会調査は何のためにおこなうのか 教科書／参考書：教科書・第 1 章
第 2 回	テーマ：量的調査と質的調査 内 容：両者の特徴 教科書／参考書：教科書・第 2 章
第 3 回	テーマ：調査の進め方 内 容： 教科書／参考書：教科書・第 3 章
第 4 回	テーマ：調査の企画 内 容： 教科書／参考書：教科書・第 4 章
第 5 回	テーマ：ワーディング 内 容： 教科書／参考書：教科書・第 5 章
第 6 回	テーマ：調査票の設計（1） 内 容： 教科書／参考書：教科書・第 6 章
第 7 回	テーマ：調査票の設計（2） 内 容： 教科書／参考書：教科書・第 6 章
第 8 回	テーマ：標本抽出の考え方（1） 内 容： 教科書／参考書：教科書・第 7 章
第 9 回	テーマ：標本抽出の考え方（2） 内 容： 教科書／参考書：教科書・第 7 章
第10回	テーマ：調査の実施とデータファイルの作成（1） 内 容： 教科書／参考書：教科書・第 8 章
第11回	テーマ：調査の実施とデータファイルの作成（2） 内 容： 教科書／参考書：教科書・第 8 章
第12回	テーマ：記述統計量 内 容： 教科書／参考書：教科書・第 9 章
第13回	テーマ：検定 内 容： 教科書／参考書：教科書・第10章および11章
第14回	テーマ：クロス表と相関係数 内 容： 教科書／参考書：教科書・第12章
第15回	テーマ：回帰分析 内 容： 教科書／参考書：教科書・第13章